

APAQGマニラ会議について

1. はじめに

2017年3月9日~10日にフィリピン マニラ市にて、APAQG (Asia-Pacific Aerospace Quality Group) マニラ会議が開催された。APAQGは国際航空宇宙品質グループ (IAQG) のアジア・太平洋地区組織であり、JAQG (Japanese Aerospace Quality Group (航空宇宙品質センター)) もその一員としてIAQGの活動戦略目標に対応したAPAQG内の活動方針決定やIAQGへの意見吸い上げに対してリーダーシップを発揮している。以下に今回の会議について報告する。

2. 会議の概要

(1) 今回のAPAQGマニラ会議には、アジア太平洋地域の航空宇宙関係22組織から41名が参加した。今回のAPAQG会議では、フィリピンの1社、韓国の航空宇宙工業会を新APAQGメンバーとして迎えることができ、APAQG活動を拡大する有意義な会議で

あった。

(2) 評議会ではそれぞれの国内での活動状況の報告や、IAQGの最新の活動状況 (規格要求、国際航空宇宙認証制度管理、製品及びサプライチェーン改善、国際スペースフォーラム、防衛、MRO) についての情報の共有を図るとともに、今後のAPAQG活動方針を確認した。

(3) 2018年春のAPAQG会議を韓国 済州島で開催することが決定された。

APAQGマニラ会議の参加国、参加組織は以下の通りである。

日本：MHI, KHI, FHI, IHI, 海外物産, SJAC

韓国：KAI, KAL, Hanwha Techwin, LIG Nex1, LRQA, Hanwa Corporation/Machinery, KAIA

台湾：AIDC

シンガポール：DSO National Laboratories, Liebherr-Singapore Pte Ltd



評議会の様子



評議会後の集合写真（APAQGメンバー）

フィリピン：Moog, B/E Aerospace Philippine Branch, Boeing, SIA Engineering, Lufthanza Technik Philippines, Jamco Philippines Inc

3. 評議会 会議内容

(a) 主要な審議結果

APAQGマニラ会議は、APAQGセクター・リーダーである北森 直樹氏（川崎重工業株式会社）の開会宣言をもって開始された。



北森氏（川崎重工業株式会社）

評議会での主要な審議結果は以下の通りである。

- ・フィリピンのB/E Aerospace Philippine Branch社がAPAQG会員メンバー、韓国航空宇宙工業会（KAIA）がリエゾン・メンバーとして承認された。
- ・2016年APAQGの決算案が承認された。
- ・2017年秋のAPAQG会議は、9月14日～15日にタイ（バンコク市）で開催することが確認された。
- ・2018年春のAPAQG会議開催国について、韓国済州島での開催が承認された。

(b) 各国のステータス報告

評議会での各国のステータス報告は以下の通りである。

日本：JAQG幹事長（嶋貫 雅一 JAQG幹事長（富士重工業株式会社）（敬称略））より、JIS Q 9100規格の認証取得会社は672社、JAQGメンバーは437社（2017年2月末時点）であることが報告された。



嶋貫氏（富士重工業株式会社）

また、2013-2018年の活動計画に基づき、ステークホルダーとの連携強化、IAQG活動への貢献と国内への展開とフィードバック、JAQG独自戦略の強化／強固な品質マネジメントシステムの構築の3つの方針に従って以下の活動状況が報告された。

- a) ステークホルダーとの連携強化として、JAQGメンバーを対象とした、JIS Q 9100／SJA9068セミナー、定例活動報告会、ステークホルダー説明会等の開催。
- b) 国内への展開とフィードバックとしてJAQG内の各ワーキンググループ（規格WG,SCMHWG,特殊工程WG等）の活動が計画通りの実施。
- c) JAQG独自戦略で進めてきた強固な品質マネジメントシステム構築のためのガイダンス資料のIAQGレベルへの格上げ。
- d) 今年度進めてきた航空宇宙JIS Q9100 2016年版発行やその認証の移行に関する各種施策の実施状況。

韓国：Mr. Choi Pilgyu（KAL）より、KAIA（韓国航空宇宙工業会）のもと2016年2月

に設立されたKAQG（Korea Aerospace Quality Group）の1年間の活動状況が報告された。また、第1回の総会を2017年5月に開催予定であること、業界が認証制度を管理する制度（ICOPスキーム：Industry Controlled Other Party）を韓国内で立ち上げることが報告された。なお、韓国のAS9100認証取得会社は345社（半年で21社増加）であり、また、整備組織向けのAS9110と商社向けのAS9120に関する認証取得会社はそれぞれ20社、10社となっていることも報告された。加えて2018年春のAPAQG会議の開催場所として韓国 済州島との提案がなされた。

シンガポール：Mr. Low Eng Siang（DSO）より、シンガポール国内の認証状況は、AS9100認証取得会社は119社、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ15社、44社であること、SAQG（Singapore Aerospace Quality Group）は、「AS91XX：2016変更概要」、「AS9100：2016移行と準備」に関する国内企業向けのワークショップを開催したことが報告された。

台湾：APAQGには台湾から2社が参加しているが、今回の会議にはそのうちの1社 AIDC社が参加し、Mr. Ing Fuh Kuo（AIDC）が自社の、QMS状況、AS9100：2016への移行計画等の紹介がなされた。

(c) IAQG戦略検討ワーキンググループ傘下の分科会の活動報告

評議会では、各IAQGの各分科会の個別報告が行われた。【（ ）内は報告者（敬称略）】

このセッションはIAQG会議に参加していないAPAQGメンバーに最新のIAQGの情報を提供し、IAQG活動の成果を共有するという側面を持っている。

規格要求分科会

(白井 達矢 APAQG 規格チーム代表 (川崎重工業株式会社))

IAQG規格要求分科会の構成、IAQG規格の発行状況、IAQG規格の改正予定、新規格の制定計画、及び9100：2016シリーズ規格の状況等が報告された。



白井氏 (川崎重工業株式会社)

IAQG新規作成規格の動向として、9145規格の制定について以下の通り報告が行われた。

9145 (APQP PPAP) 規格概要

(服部 洋彦 9145規格APフォーカル (三菱重工業株式会社))

9145規格は自動車業界で適用されている“APQP (Advanced Product Quality Planning / 先行製品品質計画)”及び“PPAP (Production Part Approval Process / 生産部品承認プロセス)”の考え方を航空、宇宙及び防衛分野の要求として規定するために開発を行った。本会議では9145規格の概要説明が行われた。



服部氏 (三菱重工業株式会社)

製品及びサプライチェーン分科会

(渡邊 靖 IAQG PSCIチーム APAQGリーダー (三菱重工業株式会社))

IAQG PSCI (Product & Supply Chain Improvement) チームの活動として、IAQG SCMH文書が2016年秋のAPAQG会議以降6点が発行 (このうち、5点はIAQG起案のガイドンス文書がIAQG SCMH文書として採用されたものである)、3点が作業中であるとの報告がなされた。



渡邊氏 (三菱重工業株式会社)

国際スペースフォーラム
(柳川 祐輝 IAQG スペースフォーラム
APAQGリーダー (三菱重工工業株式会社))



柳川氏 (三菱重工工業株式会社)

3月8日にAPAQGマニラ会議に先立ち開催されたAPAQGスペースフォーラムの結果、IAQGスペースフォーラムの活動状況、APAセクターにおける宇宙関連ステークホルダーへのコンタクト強化の取り組み、2017年の活動計画等が紹介された。

防衛当局関係強化分科会
(朝倉 崇顕 IAQG Defense Team APAQG
リーダー (株式会社 IHI))



朝倉氏 (株式会社 IHI)

IAQG ディフェンス チームの活動として、各セクターの活動概要が報告された。

IAQG MROワーキンググループの活動状況に関し、Mr. Ricky Au (IAQG MROチームメンバー (Liebherr)) より報告がなされた。日本からは、前回のAPAQG会議以降の活動状況 (JCABとのミーティング結果等) が報告された。

OPMTチームの活動報告

(福本 克治 IAQG OPMT APAQGリーダー (川崎重工工業株式会社))



福本氏 (川崎重工工業株式会社)

IAQG OPMT 各セクターの活動、9100/9110/9120：2016規格の移行状況等の報告が行われた。

(d) その他のトピックスの紹介

以下のトピックスが紹介された。

・APAQGセミナー報告

2016年11月 フィリピン マニラ市で開催されたAPRSF-23 (アジア・太平洋地域宇宙機関会議; Asia-Pacific Regional Space Agency Forum) に合わせ、2016年11月18日に開催したAPAQGマニラセミナーの報告が行われた。

・新APAQGメンバー紹介

フィリピンの B/E Aerospace Philippine Branch社がAPAQG会員メンバー、韓国航空宇宙工業会(KAIA)がリエゾン・メンバーとして承認された

・APAQG OPMT

韓国航空宇宙工業会のMr. JUN Kangminより、韓国内でのICOPスキームの設立状況が報告された。これを受けて福本IAQGOPMT APAQGリーダーより、韓国内でのICOPスキームをIAQG活動と繋げるために必要となるAPAQG OPMT（仮称）の設立計画が紹介された。

4. おわりに

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジメントシステム規格（9100規格）を初めとする関連規格の制定、認証制度の維持に加え、“On Time, On-Quality Delivery (OTOQD)”を効率的に達成することを目標に活動を展開し

ている。

アジア太平洋地域のIAQG活動は長年日本がリードしてきたが、ここ数年で中国/CAQG、シンガポール/SAQG、韓国/KAQG、に引き続きインド/InAQGが設立され、アジア各国の活動も活性化して来ている。今回の会議でも韓国の認証制度立上げの具体的スケジュールが明示され準備が進められている等、ますます各国の活動が活発化している様子が把握できた。IAQGの中でアジア太平洋地域の発言力を増して行くためには、APAQG活動を更に活発化させ、多くのアジア太平洋地域のメンバーが継続的にAPAQG会議並びにIAQG会議に参加することが重要である。

今後もJAQGは、APAQGのリーダーとしてAPAQG活動を牽引し、アジア・太平洋地区の意見としてIAQGに提言する活動を推進する所存である。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 前畑 貴芳〕